



～世界に繋がる前田青邨芸術～

美濃工業株式会社 代表取締役社長
中津川商工会議所 会頭 杉本 潤

千 字 万 感

皇居には、天皇陛下が記者会見で使用される「石橋の間」という部屋があります。中央の壁の中心には、「石橋」「赤牡丹」「白牡丹」が掲げられ威風堂々の存在感を示しています。作者は、中津川市出身で日本画壇の重鎮であった前田青邨画伯（1885年～1977年）であります。1955年、宮内庁からの依頼で仮宮殿の饗応の間を飾るため、能楽師の喜多六平太をモデルに描かれました。1970年に新宮殿が完成し、それに併せて左右の赤牡丹・白牡丹が書き添えられたものです。半世紀以上にわたる天皇陛下の記者会見の席上で、わが郷土の名誉市民でもある前田青邨画伯の作品が天皇陛下や皇室の方々とともにクローズアップされ、皆様に愛され続けていることは中津川市民の誇りであり、大いに自慢できることであります。

中津川市にも「前田青邨記念館」が1966年に建設され、以前は本画や下図など多くの所蔵品を公開していました。木曾川沿いの恵那山が望める風光明媚な場所にあり、市民や観光客など多くの来館者で賑わいをみせていました。しかし、2009年にその記念館で前田青邨作品2点の盗難事件が発生し、以来10年間閉館しています。前田青邨画伯をこよなく愛す私にとりましては、中津川市が誇る前田青邨作品がお蔵入りし続けることは残念でなりません。

2027年、中津川市にリニア中央新幹線岐阜県駅（仮称）ができることが決定しています。東京から約50分・名古屋から約10分で到着できる立地条件は、中津川市の魅力を全国あるいは世界に発信する絶好のチャンスと捉えています。一方で、リニア駅と中津川市街地には約6kmの距離があり、周辺観光や中津川市街地への誘導が大きな課題となっています。

中津川市には、前田青邨画伯以外にも、中山道の三宿場（中津川・落合・馬籠）の風情、地歌舞伎や文楽などの伝統芸能の見学・体験、苗木城跡や明治座などの古スポットの散策、栗きんとんに代表される和菓子の食べ歩きなど、磨けば魅力発信できる資源が多くあります。このような資源を活用し、中津川市は2018年に第2期中心市街地活性化基本計画の認定を国から受け、「本物磨きで未来創造」の視点で中津川市と商工会議所が連携した活性化事業に取り組んでいます。

特に今回、世界発信できる資源として前田青邨画伯に着目し、近い将来、「前田青邨美術館」を整備し、画伯の遺された功績や作品を後世に伝えたいと考えており、世界に繋がる芸術の杜づくりが私のライフワークとなっています。このような施設づくりは採算性、建設財源など多くの課題から行政が躊躇し、話題性の無いものになりがちです。官民一体で知恵を出し合い、少し夢のあるリニアにふさわしい街づくりに向け邁進していきたいと考えています。